

自殺予防教育プログラム実施報告書

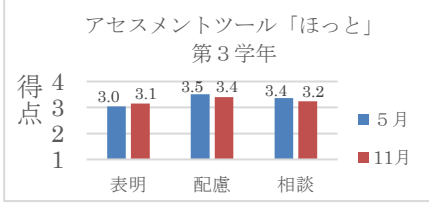
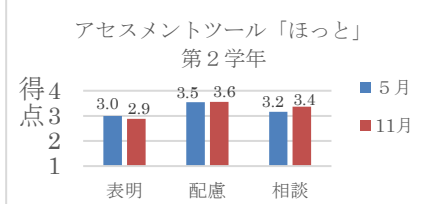
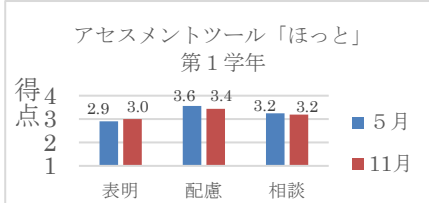
学校名	小樽市立松ヶ枝中学校
-----	------------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年12月18日(月)	研修参加人数	14人
研修内容	「生徒のSOSへの気付きと対応について」 ・ スクールカウンセラーが講話を行い、サインに気付いた時の対応の原則について研修を実施した。その中で、現在、20歳以下の自殺者数が年々増加している現状や、自殺に追いつめられる子どもの心理、自殺のサインとして考えられるものについて理解を深めた。自殺に追いつめられる子どもの心理には5つの共通点があり、子どものちょっとした変化を早期に捉え適切に対応することが重要であることや、サインに気付いた時は一人で抱え込まずに、チームで「TALK(トーク)の原則」をもとに組織的に対応することを改めて教職員で確認した。		
研修に参加した教職員の声	・ 自傷行為が友人にも波及する可能性があることや、その場合の対応について質問し、詳しく話を聞くことができ、一人一人と向き合って対話することの大切さを改めて学ぶことができた。「価値観を押しつけてはいけない」という言葉が印象に残った。 ・ 自傷行為自体が死に直結することは少ないが、自傷行為をする人は自殺する可能性が高い人物であるという言葉がとても響いた。目の前の行為ばかりに目が行ってしまいが、生徒が卒業後も安全に過ごせるように、将来を見据えて関わっていきたいと思った。		
研修等で使用した資料名	・ 令和4年度における自殺の状況(令和5年3月警察庁発表資料) ・ 児童生徒の自殺を予防するためのプログラム ・ 子どものSOSに気付くために ～校内の教育相談体勢を確認しよう～ ・ SOSの出し方に関する教育を始めましょう! ・ 自殺予防プログラムモデルプラン ・ 自殺予防教育の推進に向けて		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)	
A 援助希求的 態度の育成	<p>○ 実践の概要(目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい人間関係を形成する力を身に付けさせることを目指し、特別活動(全学年)の授業において、学級担任が、「上手な聴き方」や「あたたかい言葉かけ」「相談しやすい方法や会話の仕方」等についてペアワークやグループワークを実施した。 <p>○ 生徒の変容を促す工夫(授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の気持ちや考えを素直に打ち明けたり、打ち明けられたりできるよう、どのような「聴き方」「話し方」「表情」「声色」がよいかについて、寸劇を交えながら状況把握を行う工夫をした。また、生徒がそれぞれの場面でどのような対応をするとよかったかについて考え、実際に再現し、その後、全体で交流することで、よりよいコミュニケーションの在り方について考えることができた。 <p>○ 生徒の変容(アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月と11月に実施した「ほっと」において、第2学年は「配慮」及び「相談」の項目が増加するなど、相談しやすい人間関係を築くことができるようになったと捉えることができる。また、第1、3学年は「表明」の項目が増加するなど、意見を表明できる人間関係を築くことができるようになってきたと捉えることができる。 <p>○ 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 話しやすい環境は大事だと思いました。聴いている相手のリアクションがよいと、自分もだんだんと本音が言えるようになるので、お互いにとってよいことだと思いました。



B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
 - ・自殺の深刻な実態を知り、自殺予防の正しい知識を身に付けさせることを目指し、特別活動（全学年）の授業において、スクールカウンセラーが「自殺の現状」「自殺が起きてしまう時の心の状態とその対応」「ストレスと対処法」「SOSの出し方」等について講話した。



【講話を聞く生徒の様子】

- 生徒の変容を促す工夫
 - ・生徒は、身体からのSOSや心からのSOSにはどのようなものがあるか理解できるよう、資料を活用して自分自身や周囲の人の心の状況について考えられるよう工夫した。また、生徒が自身の心の不安定さに気付いた時にどうすればよいのか、周囲で悩んでいる人のSOSに気付いた時にどう関わればよいのか考える時間を設定した。



【ペアワークの様子】

- 生徒の変容
 - ・5月と11月に実施した「ほっと」において、第2学年は「相談」の項目、第1、3学年は「表明」の項目が増加するなど、自殺予防についての理解を深め、SOSを出すことの大切さを理解したと捉えることができる。
- 生徒の感想
 - ・いやなことがあった時やストレスがたまった時は、自分で解決できたら自分で解決し、耐えられなくなった時は、誰かに相談したいと思いました。
 - ・他人事として捉える人もいますが、自殺は本当に身近なものであって、どんな人にも起こりうることだと改めて思いました。

C ストレス対処能力の育成

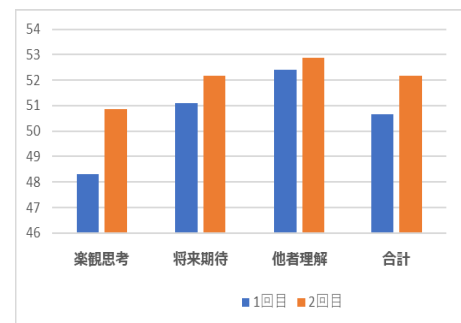
- 実践の概要
 - ・人には様々な見方や考え方があることを理解し、相手の立場や状況を考え、行動できる力の育成を目指し、道徳科（第1学年）の授業において、学級担任が、生徒がいじめにあたる行為や判断の根拠について考える学習を行った。
 - ・楽観的に、肯定的に捉える思考力の育成を目指し、保健体育科（第1学年）の授業において、教科担任が、「心身の発達と心の健康」の単元で、生徒が欲求不満を感じた時のストレスの解消法には様々なものがあることについて知るとともに、楽観的、肯定的に捉える思考力を高める学習活動を行った。



【グループ交流の様子】

- 生徒の変容を促す工夫
 - ・道徳科（第1学年）の授業において、生徒が、「いじめは絶対に許されない」という意識をもつことができるよう、身近な事象を通して、その行為がいじめにあたるかどうか、いじめを受けている人、いじめをしている人、周囲の人に自分を置き換えて考えたことをグループで交流する活動を取り入れる工夫をした。
 - ・保健体育科（第1学年）の授業において、生徒が、ストレスの感じ方や様々な対処法について理解できるよう、身近な例を通して考えるとともに、同じような状況であっても様々な対処法があることに気付くように、ペアやグループで交流するなどの工夫をした。

- 生徒の変容
 - ・2回実施した「ほっとプラス」の、「楽観思考」「将来期待」「他者理解」の項目で、1回目よりも2回目の数値が増加していることから、「楽観的に考え直す力」「将来に目を向ける力」「自分に置き換える力」が身に付いたと捉えることができる。



- 生徒の感想
 - ・自分の考えと似ていたり、違う考えだったり、様々な考えがあり共感できました。
 - ・ストレスがたまったら、リラックスするようしたり、誰かに話したり、ストレスがたまっている人がいたら聞いてあげたいと思いました。